

## 「東京は葛飾・柴又」へ

常磐線の「金町」で降りて、江戸川堤を歩いた。目的は寅さんのように東京は葛飾・柴又である。きれいに整備された遊歩道をしばらく歩くと、「矢切の渡し」が見えてきた。土手の芝生に座って、ほんやり川の流れを眺めていたら、つい寅さんの冒頭シーンが思い出された。土手を降りて「帝釈天」に向かう。境内は参拝客で賑わっていたが、鐘楼から「源公」がつく鐘の音が聞こえてくるようであった。



「帝釈天参道」は草だんごや佃煮などを買い求める観光客で一杯であった。寅さんの実家「くるまや」のモデルになった「高木屋老舗」に入り、草だんごを食べながら休憩する。壁には寅さんや山田監督と店の人が並んだ写真が飾ってある。店から参道を眺めながら、なんだか懐しい気分になる。今にも例の調子で寅さんが旅から戻って、店に入ってくるような感じがした。

休憩のあとは、京成・柴又駅に向かう。寅さんとさくらとの駅での別れのシーンが思い浮かぶ。駅前には寅さんの銅像が建てられており、多くの人がある前で記念写真を撮っていた。名俳優・渥美清が亡くなって、こととして10年が経つ。1996年8月4日、寅さんを演じつづけた渥美清は転移性肺がんのため68歳で亡くなった。この10年間のことを考えながら、柴又駅をあとにした。



(2006年1月31日 記)